

肥薩おれんじ鉄道株式会社
運転士 大平 智弥 さん



お客様の安全と定時運行は当然のこととして、より快適な運転操作を心がけています。車内アナウンスでは、利用する人が必要としている情報は何かを常に考え、目的地まで安心してご乗車いただけるよう、日々スキルアップに努めています。今後は、沿線の観光情報なども取り入れて、よりご案内を充実させたいですね。

この路線は、お客様と運転士の距離が近いワンマン運転です。鉄道好きのお子さんに運転席をのぞいてもらったり、わからないことを直接聞いてもらったりと、より身近に感じてもらえたらうれしいです。

人口減少の時代ですが、沿線の皆さんに必要とされる路線であり続けられるよう、社員全員が心を一つに頑張っています。

インタビュー Interview

おれんじ鉄道の魅力について、
運行する人、利用する人のそれぞれに話を聞きました。



NPO法人ななうらステーション
代表 藤井 ゆみ さん

私は自家用車を持っていないので、日常的な移動にもおれんじ鉄道をはじめとした公共交通機関を利用します。

この路線の魅力は、やはり車窓からの景色です。海沿いでは、八代海に沈む夕日。山側では、斜面に真珠のように映える色鮮やかなかんきつ類。どれもこの地域では見知った風景ですが、車窓からのんびり眺めると、改めて美しさに気付かされます。

佐敷駅や日奈久温泉駅は、今や珍しい木造の駅舎です。車両も、座席の作りや配置など、都市部では見られないゆったりしたもの。あちらこちらに感じる懐かしさに、自然と心も和みます。

自分から選ばないと味わえない「ぜいたくな時間」が、おれんじ鉄道にはあると感じています。



うみ、まち、さとを結ぶ
「肥薩おれんじ鉄道」

おれんじ鉄道の今

肥薩おれんじ鉄道は、九州新幹線の開業に伴い平成16年3月にJR九州から経営分離された鹿児島本線の八代駅と川内駅（鹿児島県）間の116.9kmで営業している鉄道です。熊本・鹿児島両県、沿線地域の市町、JR貨物が出資して設立された第三セクター「肥薩おれんじ鉄道株式会社」が運営しています。

住民の身近な生活路線であり、地域内の移動手段として利用されている同鉄道は、今年で開業16年目を迎えました。開業当初は年間利用者数が180万人を超えていましたが、沿線人口の減少や南九州西回り自動車道の部分開通などによって、近年はピーク時の約6割程度に。平成30年度利用者の内訳を見ると、全体の約7割は沿線地域の高校生などに通う学生が占め、観光客が約2割、沿線住民の利用者は約1割にとどまり、学生や観光客に依存しているのが現状です。

感じてほしい
おれんじ鉄道の魅力

昨年、同鉄道を舞台とした映画「かぞくいろ RAILWAYS わたしたちの出発」が公開されました。ロケ地を巡る聖地巡礼やスタンプラリーなどのイベントも行われ、この路線の魅力が全国に知られるきっかけになりました。公開を前にした記者会見で「自分自身とゆっくり向き

利用者を増やすために

このように厳しい状況ですが、同社ではさまざまな事業に取り組み、各駅と市町と共により、地域を盛り上げようとしています。

平成25年には、観光列車「おれんじ食堂」の運行を開始。床やテーブルなど車内で使われている木材は熊本・鹿児島産で、車内に明るさと心地よさを演出しています。食事は、沿線の提携店舗や地域の旬の食材を使った料理を提供。景色が良い場所では、スィードを落として運行するサービスがあり、車窓からの景色を眺めながらの料理は格別です。沿線地域外の観光客はもちろん、外国人観光客からも人気を博しています。

6月23日には、台湾鉄路管理局の屏東線・南廻線との姉妹鉄道協定を締結しました。今後、この協定を基に日台間の誘客事業を展開していく計画で、アジア地域をはじめ海外からの観光客の増加が期待されます。

合う時間が持てるすてきな路線」だと話した、主演の有村架純さん。その言葉のとおり、車窓からの素晴らしい景色と、時間がゆったりと流れるような車内の雰囲気は、身近にある、誰でも味わうことができる、非日常の空間といえるでしょう。

いつものお出かけにおれんじ鉄道を利用して、ほっとする時間を過ごしてみたいかがでしょうか。



くまモン列車1号



くまモン列車2号



くまモン列車3号



(写真上・左上・左) くまモンのラッピング列車 (写真左下) くまモンがたくさんのお内装

くまモン列車は3種類あり、海と空をイメージした青色(1号)、かんきつと夕日のオレンジ色(2号)、くまモンの黒色(3号)の車体が目印。車体や車内のあちらこちらにくまモンが描かれており、何度でも乗りたくなる列車です。特に先頭がくまモンの顔になっていて3号は、子どもだけでなく大人も一緒に写真を撮りたくなるデザインです。ぜひ、お気に入りのラッピング列車で、沿線地域の風景やおいしい食べ物を満喫して、楽しい思い出をたくさん作りませんか。

運転席の横には子ども展望席もあって、子どもから大人まで楽しめます。



(写真上) ダイニング・カーの車内 (写真下) 沿線地域の特産物を使用した料理

ゆったりとした造りの1号車「ダイニング・カー」。談笑しながら食事を楽しめるテーブル席のほか、海側にはカウンター席も設けてあり、八代海を眺めながら、地酒を味わうのもおすすめです。

1車両にわずか20席だけの配置なので、ゆっくりと自分の時間を過ごしたい人にぴったり。熊本・鹿児島両県の民芸品を展示したショーケースもあり、沿線地域の歴史や伝統に触れることができます。

魅力発見の旅へ、いざ出発!

おれんじ鉄道では、ホームページなどで情報や魅力を発信しています。お得なきっぷもありますので、ぜひチェックしてください。



ホームページ

| 切符の名称 | 利用条件 | 大人 | 65歳以上 | 小人 |
|-----------|--------|--------------------|-------|--------------------|
| 1日フリー乗車券* | 全日 | 2,880円 (2,940円) | | 1,440円 (1,470円) |
| わくわく切符 | 土日祝日限定 | 2,000円 | | 1,000円 |

*10月1日から価格を改定します。()内は改定後の価格です。



おれんじ鉄道には、オレンジが描かれた標準の白い車両のほか、さまざまなデザインのリッピング列車があります。その中でも特に人気があるのは、くまモンが描かれた列車です。

くまモン列車は3種類あり、海と空をイメージした青色(1号)、かんきつと夕日のオレンジ色(2号)、くまモンの黒色(3号)の車体が目印。車体や車内のあちらこちらにくまモンが描かれており、何度でも乗りたくなる列車です。特に先頭がくまモンの顔になっていて3号は、子どもだけでなく大人も一緒に写真を撮りたくなるデザインです。

クルーズトレイン「ななつ星in九州」を手掛けた水戸岡鋭治氏がデザインした風光明媚な九州西海岸を走る観光列車です。レストランのような内装の車内では、地元産の食材を使用した四季折々のメニューを楽しめます。



くまモンと一緒に楽しい旅 ラッピング列車

豪華な食事で優雅な旅 おれんじ食堂

私たちのおれんじ鉄道を 次の世代に

おれんじ鉄道は、買い物や通院、通学する人にとって、無くてはならない大切な交通手段です。おれんじ鉄道を残していくためには、私たち沿線地域の住民が利用することが必要不可欠です。この機会におれんじ鉄道を利用して買い物や観光に出かけてみませんか。

インスタ映え・グルメスポットを巡ろう 沿線おすすめMAP



水島(国指定名勝)からの夕焼け

古くは「日本書紀」に記され、「万葉集」では長田王が水島の神々しさを歌っています。古くから人々に愛されてきた絶景・神秘の場所です。



上田浦の隠れた絶景

地元の人しか知らない場所で、海沿いの道から透明で美しい海とおれんじ鉄道の両方が楽しめます。



袋

水俣

新水俣

津奈木

湯浦

佐敷

海浦

肥後田浦

たのうら御立岬公園

上田浦

肥後二見

日奈久温泉

肥後高田

八代

新八代



つなぎの根っこ

津奈木駅のホームには、道路の白線素材を使用した地上絵が描かれています。画家の浅井裕介さんと一般参加者が共同で制作したもので、町の自然などをモチーフにした作品となっています。



みなまたスイーツ

水俣駅から半径1km圏内に10店舗以上の菓子店が集まるスイーツのまち。お気に入りを探して、食べ歩いてみてはいかがでしょうか?